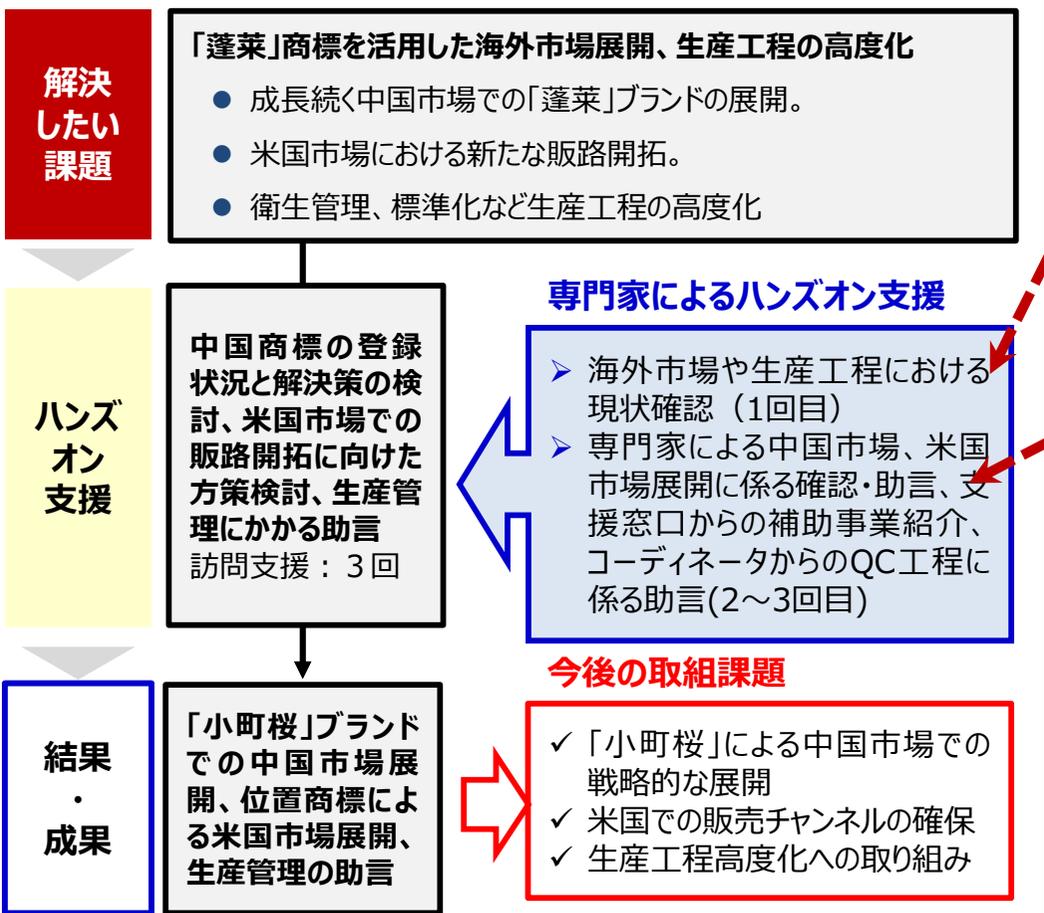


事例10：有限会社渡辺酒造店（海外市場での商標活用によるブランド展開、生産工程の高度化・標準化）

■ 知的財産経営実践の概要



■ 取組の詳細

- 成長著しい中国市場向での展開を目指しているが、酒類で「蓬萊」商標が現地企業により登録されていた。また、米国市場での販売のためこ入れが必要であった。一方、HACCP認証や杜氏の暗黙知の標準化など生産工程の高度化も課題であった。
- 中国市場に関しては、「飛騨蓬萊」での登録可能性、現地企業とのクロスライセンスの可能性を検証したが、決定打とはなり得なかった。一方、「小町桜」の中国商標登録を進めており、現地商社との販売契約も締結していたため、同ブランドでの展開を図ることとした。
- 米国市場に関しては、販路開拓に向けたレップ制度の紹介と位置商標を紹介した。レップ制度は予算面や商習慣などから見送ることとし、位置商標の活用を図ることとした。
- 生産工程の高度化に向けては、QC工程を参考に、引き続き取り組むものとした。



■ 企業の声

コーディネータと専門家のアドバイスにより、海外市場の実態把握を行うことができ、展開方針を固めることができた。また、QC工程についても、理解を深めることができた。知財総合支援窓口で、様々な支援・補助メニューが提供されていることを理解できたので、上手く活用しながら取り組みを進めていきたい。

■ 企業概要

業種	酒類製造及び販売				
住所	岐阜県飛騨市	URL	http://www.watanabeshuzouten.com/		
設立	1949年9月	従業員数	60人	資本金	3,000万円

■ 支援専門家（回数）

支援コーディネータ
経営コンサルタント（3）
同行専門家
弁理士（2）
知財総合支援窓口（2）